

語釈：インターネット Twitter 上でみる Trump 前米大統領の英語 (44) (A Basic Way of Reading Trump-Language)

後藤 寛

本協会での追究目標の1つに英語以外の他言語の研究を銘打ってもきたが、それは日本語を含めた他言語と英語との「対照研究(contrastive studies)」ということにもなる。英語の語彙論的語釈(lexicological interpretations of English words)には英語以外のラテン系言語を対比・対照するのが有益となる。本連載(17)の(2)で Trump 氏の英語 tweet のスペイン語翻訳版を用いることで2言語対照の手法を採ることの有益性はすでに示唆したのであるが、ゲルマン系英語とラテン系言語などとの対照は西洋語の共通な発想法(frame of reference)を知ることになり、英語のより深い理解法を追求することにもなる。

本連載「語釈」では日本の時事英語研究者ばかりでなく米国の言語学者も注目した Trump 氏の口語風の趣ももつ、きわめて特徴あるメディア英語文を見てきている(今回は上記、本連載(17)の(2)で言ったように、現在は凍結されネット上で閲覧できない彼の tweet の貴重なスペイン語翻訳版も 2)の tweetで見てみる)。

英語だけより、基本的に発想の同じ他の西洋言語の翻訳版を参考とすることでさらに理解も深まるわけである。西洋言語は発想が同じであるばかりでなく、語も共通な PIE (印欧祖語) の paronym (同系語)・その variant (変異形・変異音)であり血統は同じということである。いわば生体なら同じ DNA をもっているということになる。

(1) The courage & sacrifice of our heroes is the reason our flag stands tall, our hearts beat with pride, and our Country remains one people, one family, and one NATION UNDER GOD. Today we thank you, we honor you, & we forever cherish the memory of our Fallen Men and Women in Blue! (May 15, 2019)

▲これはアメリカの殉職警察官記念日(5月15日)の tweet [本連載(17)の(2)参照] である。本連載(12)の(2)で扱った tweet と対照するとよい。また、本連載(30)の冒頭書き出しで引き合いに出した Trump 氏の2016年9月の演説での言説を思い起こすとよい。

「国内の治安に携わり殉職した警察官・保安官はわれわれの英雄であり、その勇気と犠牲心のゆえに米国星条旗が高くそびえ立つ、われわれの心は誇りで波打つ、わが国は神の下で一民族・一家族・一国家でありつづける、本日ここに彼らに感謝するとともに、彼らに敬意を表する、われわれは彼らを永久に忘れることはない」という内容。

くだけた文を書く Trump 氏らしく思えない感じもするが何度も唱えてみたい。みずからつぶやきながらの transcription (書き起こし・書写)にも良い文例である。

太線語 courage (勇敢さ) は PIE etymon の音素形/KER/に由来し、元来は穀物の受粉核(芯)のこととされている。ここから「丸くて、堅く、結ばれていること」を意味する一連の語が英語となった。Basic 語 curve, cord, record, increase, secret、また初頭子音[k]が[h]や[s]ともなった Basic 語 heart, circle, certain など、プラスα Basic 語 circus, certificate など、さらには un-Basic 語 corn, core, cereal など多くの語が同系となる〔さらに他の例は拙著(2016)「松柏社」、第二部、例(14)参照〕。

太線語 sacrifice (犠牲) は本連載(4)の②ですでに扱ったが{sacri (= saint) + fice (= to make)}と要素分解され、プラスα Basic 語 saint (聖人) の意味をもつ聖なる語である。

下線とした is はこの場合 are とする必要はない。数としては「1」ととらえてよい。また、もう1つの下線部は本連載(30)での “We will be one people, under one God, saluting one American flag.” と合致する。なお、末尾の in Blue はもちろん dressed in Blue 「青色の制服を着た」の意味であるが、人は誰でも衣類を身に着けている。身体に取り付ける衣類・衣服の視点から見る英語での人の形容の仕方には注目しておきたい。本会 Year Book 2020, 2022 (Nos.72, 74)での拙稿ではこのあたりに注目した。

[以下、スペイン語翻訳版もある tweet (2018.01-05)より — 2言語対照]

(2) North Korean Leader Kim Jong Un just stated that the “Nuclear Button is on his desk at all times.” Will someone from his depleted and food starved regime please inform him that I too have a Nuclear Button, but it is a much bigger & more powerful one than his, and my button works ! (January 2, 2018)

cf. El líder de Corea del Norte, Kim Jong Un, dijo que el “Botón Nuclear está siempre en su escritorio.” Alguien en su mermado y hambriento régimen, por favor, dígame que yo también tengo un Botón Nuclear, pero es más grande y poderoso que el suyo, ¡ y el mío funciona ! (2 de enero, 2018)

▲これは2018年1月2日のTrump氏のtweetで、世界中に知れ渡った。彼は当時、北朝鮮の金正恩労働党委員長のことを Small Rocketman と称していた。下線部がポイントで、金正恩は“核ボタンは常に自分の机上にある”と言ったが、貧しく飢えた国家の誰かが彼に“私も核ボタンを有しているが、私のボタンは彼のものよりはるかに大きいし、もっと有効に機能するものだ！”と言ってやって欲しいという内容であった。

このtweet文をまずはMSOEスクリーン上に乗せ、分かり方を確認してみる。

STATEMENT					
		THEME : NP	RHEME : VP		
STR	C/C	N ₁	COP/V	N ₂ /N ₃ /A	ADV
1	φ	North Korean Leader Kim Jong Un	just stated /	φ	φ
2	that	the “Newclear Button	is	φ	on his desk
3	φ	φ	φ	φ	at all times.” //
1	φ	Someone (∞)	will	φ	from his depleted and food starved regime
2	please	φ	inform	him /	φ
3	that	I too	have	a Nuclear Button, (/)	φ
4	but	it	is	a much bigger & more powerful one	φ
5	than	his, (/)	φ	φ	φ
6	and	my button	works ! //	φ	φ

〔備考〕単一斜線（／）は各文での意味的2分割線。

さらに今回もこの tweet 文の拍(beat)・心的リズムを次に確認しておこう。

弱音・強音で感知する英音の心的2拍子リズム(mental prosody)

(弱音系)	(強音系)
φ	North Korean Leader Kim Jong Un just stated
that the	“Nuclear Button
is on his	desk
at	all times.” //
Will	someone
from his	depleted
and	food starved regime please inform
him that	I too have
a	Nuclear Button,
but it is a	much bigger
&	more powerful one
than	his,
and my	button works ! //

語の弱音系、強音系はともに $(3 \pm \alpha)$ 語となると考えてよい。弱音系ではなく強音系の語句の縦読みだけでもほぼ意味は把握できる。弱音系語句は強音系語句に対し意味的にどういう関係にあるかを表示し、両者は「関係性」というほぼ1点で結びつく。

この例では表中2つ目の文の4行目の代名詞 ‘I’ はここでは強音とし、下から2行の代名詞 ‘his’ はもちろん his nuclear button の意味であり強音での分類としている。

Trump 氏は気ままに、頻繁に文中で本来は小文字書きの語も大文字書きとするが、これは語強勢(word stress)にも厳密な基準はきわめて少ないことの証となる。

日本人が英語修得上で最も苦心するのが英音の聴取のはずで、「音の壁」こそ最も深刻な問題と言える。朗読調で吹き込まれた市販のいわゆる語学テープではなく、生の音環境での英音のシャドーイング(shadowing)、復唱(following/repetition)、また文字での書き起こし(transcription)で汗をかく集中 training が必要となる。

hearing で誰にもよく聞こえる声の抑揚としての intonation であるが、日本人は英語での intonation ばかりをフワフワと聴いていて本来の英語の呼吸法での ‘sound’ を聴いていないと言える。Trump 氏はコロナ禍でマスクを着けた状態での記者会見を大変嫌ったが、マスクの装着は英音に支配的な aspirate (氣息音) を acoustically (音響的) に遮断し聴き辛くする。マスクを通した英音と日音での周波数に変調をきたす度合に関する研究結果も出るとよい。音声は大気温度・湿度など気象状態、また特に室外空間での昼間か夜間かでも音響状況はかなり異なる。言語学から物理学へである。

(2)での太線の Basic 語 **button** は「膨れていること」が原義で他の Basic 語 **ball, bell, bag, etc.**と同系、次の太線語 **deplete** の語中音 [pl] 音は「満たすこと」が原義で **complete, etc.**と同系、太線語 **regime** の語頭 **reg** は「支配すること」を意味し Basic 語 **regular, etc.**と同系であることを見て取りたい。これまでにすべて本連載で扱った。

cf.のスペイン語はまるで英語からの単なる語の置き換えである。発想は同一で、音韻体系からすればスペイン語のほうが日本人には何倍も容易に修得できるはずとなる。

